

献呈の辞

政経学部長 岩元 浩一

国士舘大学政経学部は、来年 2021 年に創設 60 周年を迎えます。そうした中、安永 勲先生は、1977 年に国士舘大学大学院政治学研究科博士課程を満期退学され、同年 4 月より本学日本政教研究所助手として奉職されました。学部大学院を合わせて半世紀にわたり本学に学び教員生活を送られてきた安永先生は、正に政経学部の発展の歴史を体現されて来られた生き証人に他ありません。

私が安永先生に初めてお目にかかったのは、1987 年 4 月、私が政経学部経済学科の教員として採用され、世田谷校舎での入学式の後のオリエンテーションの時でした。着任の短い挨拶だけでしたが、一見強面で厳格な印象だったことを鮮明に覚えています。あの日から 33 年、学科は政治・政治行政と経済と別々でしたが、お会いする度に何かと声をかけて下さり、叱咤激励をいただいたことは、私の国士舘大学での教員生活を豊かにそしてより充実したものにしてくれました。改めて心より御礼申し上げます。

この間、学年担任、就職指導委員会委員、生涯学習センター運営委員、日本政教研究所兼担研究員、政経学会副会長および 2000 年 4 月から 2003 年 6 月まで政治学科主任を歴任されました。とりわけ政治学科主任としてリーダーシップを発揮し、若手教員を積極的に採用し、政治学科の活性化に大きく貢献されました。また学年担任としての学生指導にも定評があり、大学生として将来への道筋として今何をなすべきか、学ぶことにどのような意義があるのか、大学生活とはどうあるべきか、といった大学生としての本質を常に説

いておられたことが思い浮かべられます。教員と学生との垣根を越えた交流に、安永先生の学生に対する強い思いを感じました。「国をおもい世のため人のために尽くす」という本学の精神は、安永先生の中にも脈々と受け継がれてきていました。大学教育のあり方が大きく変化する様を見てこられた先生の教示を、どのように生かし実践していくかは、我々後進に与えられた課題でもあります。

研究活動では、「政治と行政の関係性と変容」を中核に、「グローバル化をめぐる諸見解」、「D. ヘルドらの議論によるグローバル政治の発展」、「グローバリゼーションと政治」、「政治概念の発展について」、「政治体系から見た D. イーストンの政治理論の構想」といった、政治とグローバリゼーションの位置づけに関する研究を長年続けられ、多くの実績を残されました。

安永先生が、政経学部の発展のためにこれまでご尽力賜りましたことに、学部を代表して御礼申し上げます。先生の益々のご多幸とご健勝を祈念し、本号を献呈させていただきます。